

お客様各位

---

## カタログ等資料中の旧社名の扱いについて

---

2010年4月1日を以ってNECエレクトロニクス株式会社及び株式会社ルネサステクノロジが合併し、両社の全ての事業が当社に承継されております。従いまして、本資料中には旧社名での表記が残っておりますが、当社の資料として有効ですので、ご理解の程宜しくお願ひ申し上げます。

ルネサスエレクトロニクス ホームページ (<http://www.renesas.com>)

2010年4月1日

ルネサスエレクトロニクス株式会社

【発行】ルネサスエレクトロニクス株式会社 (<http://www.renesas.com>)

【問い合わせ先】 <http://japan.renesas.com/inquiry>

## ご注意書き

1. 本資料に記載されている内容は本資料発行時点のものであり、予告なく変更することがあります。当社製品のご購入およびご使用にあたりましては、事前に当社営業窓口で最新の情報をご確認いただきますとともに、当社ホームページなどを通じて公開される情報に常にご注意ください。
2. 本資料に記載された当社製品および技術情報の使用に関連し発生した第三者の特許権、著作権その他の知的財産権の侵害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。当社は、本資料に基づき当社または第三者の特許権、著作権その他の知的財産権を何ら許諾するものではありません。
3. 当社製品を改造、改変、複製等しないでください。
4. 本資料に記載された回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報は、半導体製品の動作例、応用例を説明するものです。お客様の機器の設計において、回路、ソフトウェアおよびこれらに関連する情報を使用する場合には、お客様の責任において行ってください。これらの使用に起因しお客様または第三者に生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
5. 輸出に際しては、「外国為替及び外国貿易法」その他輸出関連法令を遵守し、かかる法令の定めるところにより必要な手続を行ってください。本資料に記載されている当社製品および技術を大量破壊兵器の開発等の目的、軍事利用の目的その他軍事用途の目的で使用しないでください。また、当社製品および技術を国内外の法令および規則により製造・使用・販売を禁止されている機器に使用することができません。
6. 本資料に記載されている情報は、正確を期すため慎重に作成したのですが、誤りが無いことを保証するものではありません。万一、本資料に記載されている情報の誤りに起因する損害がお客様に生じた場合においても、当社は、一切その責任を負いません。
7. 当社は、当社製品の品質水準を「標準水準」、「高品質水準」および「特定水準」に分類しております。また、各品質水準は、以下に示す用途に製品が使われることを意図しておりますので、当社製品の品質水準をご確認ください。お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途に当社製品を使用することができません。また、お客様は、当社の文書による事前の承諾を得ることなく、意図されていない用途に当社製品を使用することができません。当社の文書による事前の承諾を得ることなく、「特定水準」に分類された用途または意図されていない用途に当社製品を使用したことによりお客様または第三者に生じた損害等に関し、当社は、一切その責任を負いません。なお、当社製品のデータ・シート、データ・ブック等の資料で特に品質水準の表示がない場合は、標準水準製品であることを表します。  
標準水準： コンピュータ、OA 機器、通信機器、計測機器、AV 機器、家電、工作機械、パーソナル機器、産業用ロボット  
高品質水準： 輸送機器（自動車、電車、船舶等）、交通用信号機器、防災・防犯装置、各種安全装置、生命維持を目的として設計されていない医療機器（厚生労働省定義の管理医療機器に相当）  
特定水準： 航空機器、航空宇宙機器、海底中継機器、原子力制御システム、生命維持のための医療機器（生命維持装置、人体に埋め込み使用するもの、治療行為（患部切り出し等）を行うもの、その他直接人命に影響を与えるもの）（厚生労働省定義の高度管理医療機器に相当）またはシステム等
8. 本資料に記載された当社製品のご使用につき、特に、最大定格、動作電源電圧範囲、放熱特性、実装条件その他諸条件につきましては、当社保証範囲内でご使用ください。当社保証範囲を超えて当社製品をご使用された場合の故障および事故につきましては、当社は、一切その責任を負いません。
9. 当社は、当社製品の品質および信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品はある確率で故障が発生したり、使用条件によっては誤動作したりする場合があります。また、当社製品は耐放射線設計については行っておりません。当社製品の故障または誤動作が生じた場合も、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないようお客様の責任において冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計等の安全設計およびエージング処理等、機器またはシステムとしての出荷保証をお願いいたします。特に、マイコンソフトウェアは、単独での検証は困難なため、お客様が製造された最終の機器・システムとしての安全検証をお願いいたします。
10. 当社製品の環境適合性等、詳細につきましては製品個別に必ず当社営業窓口までお問合せください。ご使用に際しては、特定の物質の含有・使用を規制する RoHS 指令等、適用される環境関連法令を十分調査のうえ、かかる法令に適合するようご使用ください。お客様がかかる法令を遵守しないことにより生じた損害に関し、当社は、一切その責任を負いません。
11. 本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾を得ることなく転載または複製することを固くお断りいたします。
12. 本資料に関する詳細についてのお問い合わせその他お気付きの点等がございましたら当社営業窓口までご照会ください。

注 1. 本資料において使用されている「当社」とは、ルネサスエレクトロニクス株式会社およびルネサスエレクトロニクス株式会社とその総株主の議決権の過半数を直接または間接に保有する会社をいいます。

注 2. 本資料において使用されている「当社製品」とは、注 1 において定義された当社の開発、製造製品をいいます。

# M16C/60, M16C/20 シリーズ

## アドレス一致割り込み

### 1. 要約

この資料は M16C/60、M16C/20 シリーズのアドレス一致割り込み機能の使用方法を紹介し、アドレス一致割り込みと外付けメモリを使用して ROM を修正する応用例を掲載しています。

### 2. はじめに

この資料で説明する応用例は次のマイコンでの利用に適用されます。

・マイコン：M16C/60、M16C/20 シリーズ

### 3.0 応用例の説明

#### 3.1 アドレス一致割り込み概要

アドレス一致割り込みは、アドレス一致割り込みレジスタに設定したアドレスが示す命令を実行する直前に発生する割り込みです。M16C/60 シリーズは、アドレス一致割り込みレジスタを 2 本備えています。

##### 割り込みの許可/禁止

アドレス一致割り込み許可ビットで、許可/禁止できます。アドレス一致割り込みは、プロセッサ割り込み優先レベル (IPL) や割り込み許可フラグ (I フラグ) の影響は受けません。

##### 割り込み発生タイミング

アドレス一致割り込みレジスタには、命令の先頭アドレスを設定してください。ただし、割り込みルーチンの先頭命令のアドレスを設定した場合は、アドレス一致割り込みは発生しません。命令の途中やテーブルデータなどのアドレスを設定した場合も、割り込みは発生しません。

##### 割り込みからの復帰

アドレス一致割り込み発生時に、スタックに積まれる戻り先アドレスは、アドレス一致割り込みレジスタで指定したアドレスの命令によって異なります。割り込みから復帰する際は、スタックの内容を書き換えた後、REIT 命令で復帰、またはスタックを POP 命令などを使用して割り込み発生前の状態に戻した後、ジャンプ命令で復帰してください。

##### 割り込みの判定

アドレス一致割り込みレジスタは 2 本、用意されており、アドレスを 2 箇所、設定することができます。しかし、割り込みルーチンの先頭アドレスを格納するベクタアドレスは、1 箇所しか用意されていません。したがって、どちらのアドレス一致割り込みレジスタによって発生した割り込みであるかを、割り込みルーチンの先頭で、スタックの内容などから判定する必要があります。

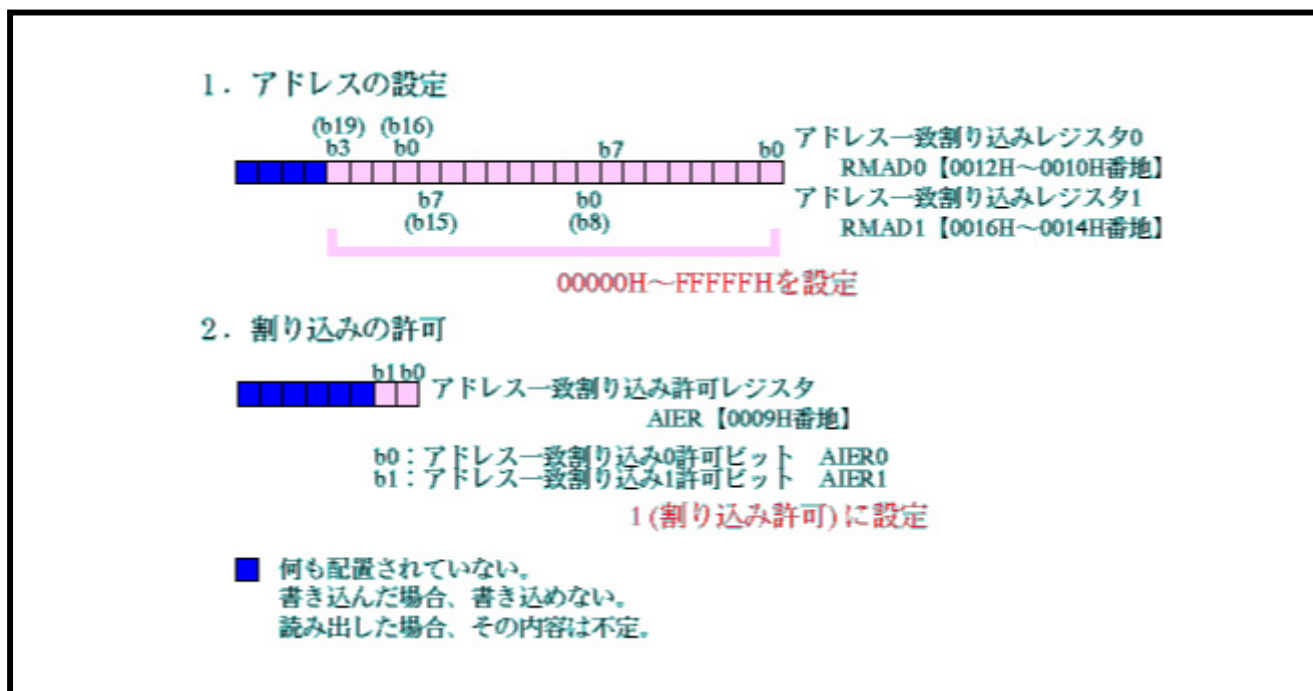


図 1. 設定手順

## 3.2 ROM 修正の方法

### 概要

ROM 修正機能とは、アドレス一致割り込みを使用して、マスク投入後に発見された不具合を修正する機能です。

1. リセット時に、外部メモリ（E2PROM など）から内部 RAM に、修正したプログラムを転送します。また、アドレス一致割り込みレジスタに、不具合のあるアドレスを設定します。
2. アドレス一致割り込みレジスタに設定したアドレスを実行する直前に、アドレス一致割り込みが発生します。
3. アドレス一致割り込みルーチンでは、内部 RAM に転送されたプログラムを実行するように、プログラムします。

注. ROM 修正機能は、マスクされたコードを正しいコードに書き換える機能ではありません。

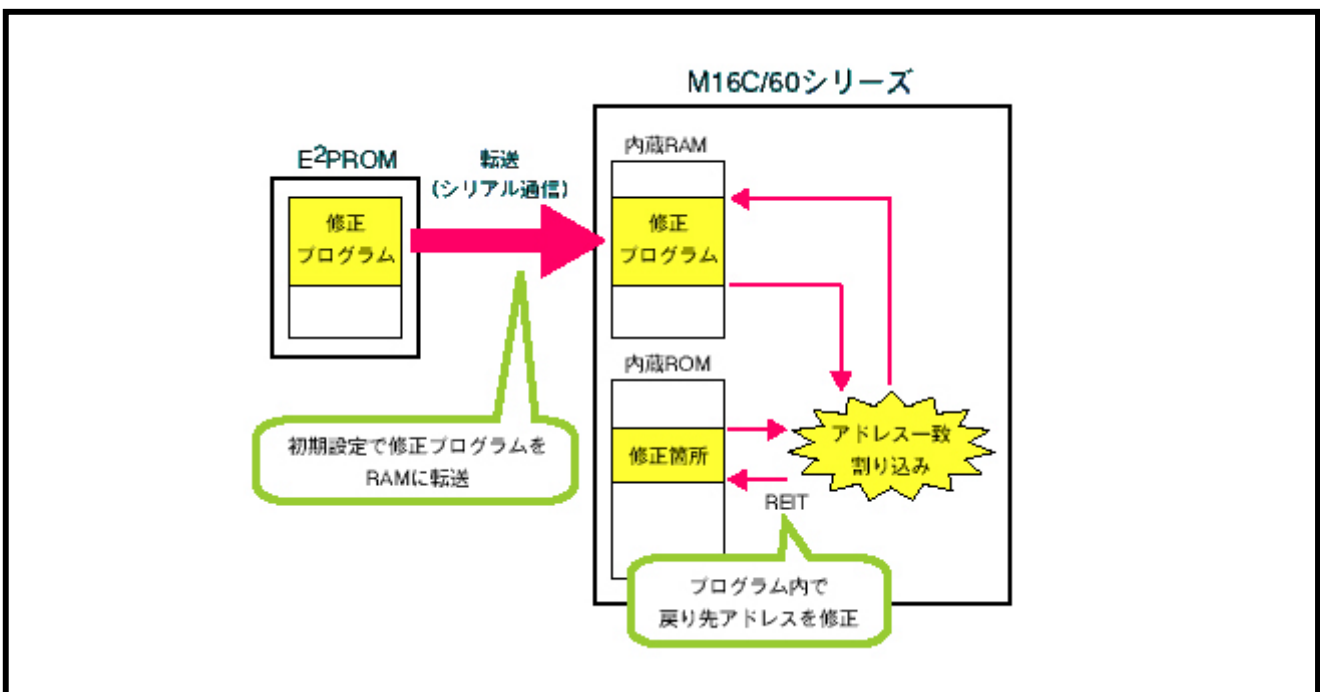


図 2. ROM 修正機能

### 3.3 アドレス一致割り込みを使用した ROM 修正機能の実用例

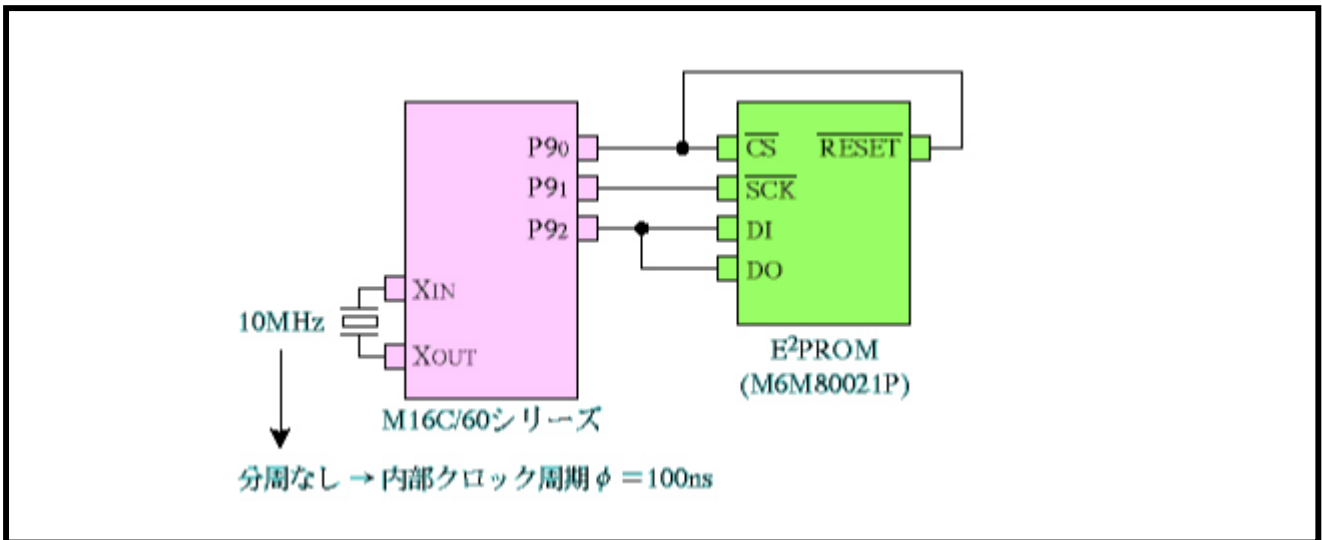


図 3. ハードウェア構成例

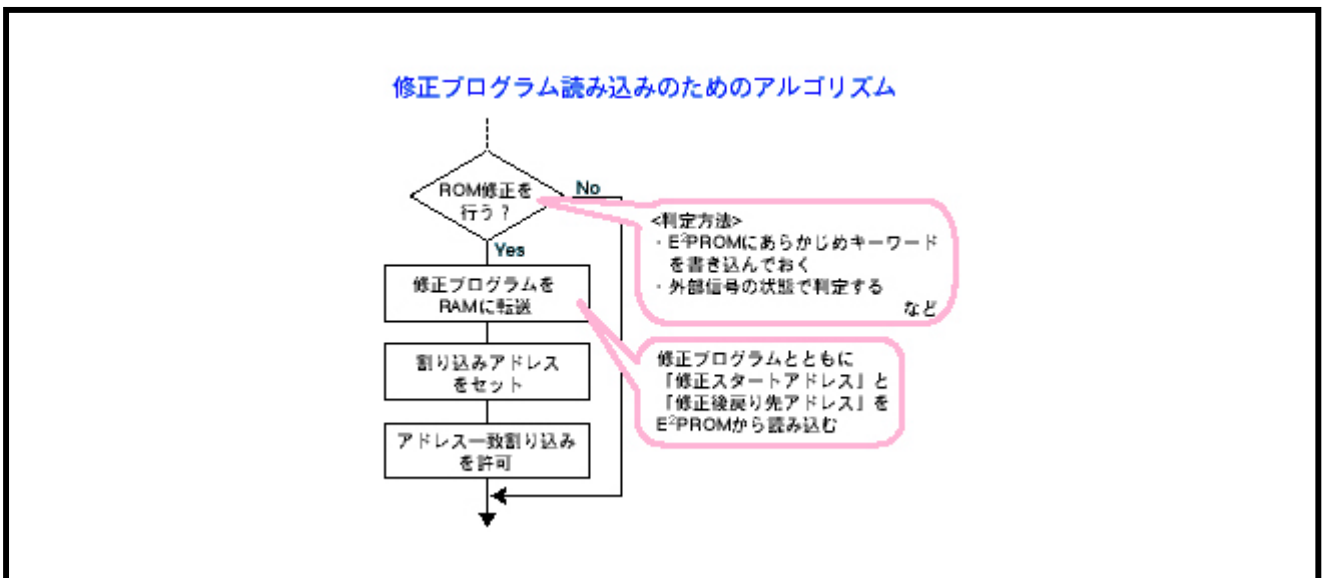


図 4. ソフトウェア構成例[初期設定]

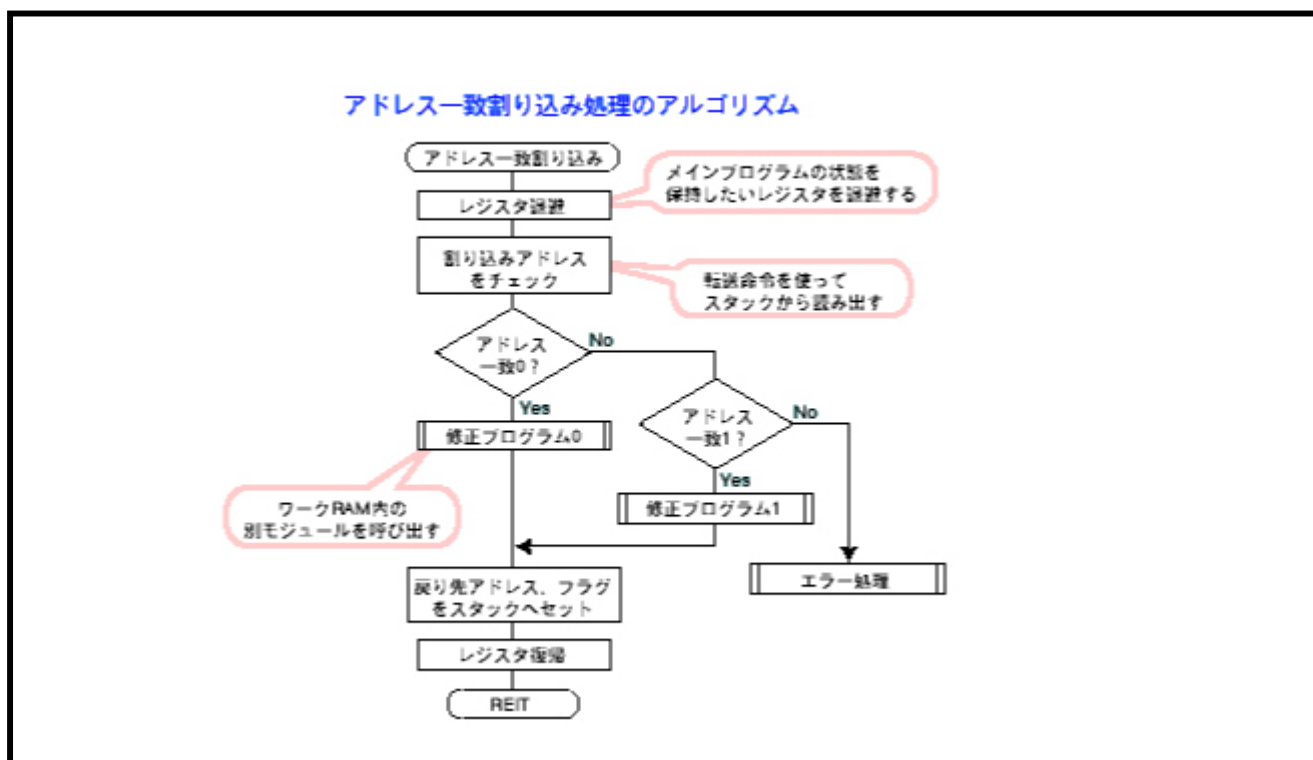


図 5. ソフトウェア概略[アドレス一致割り込み処理]

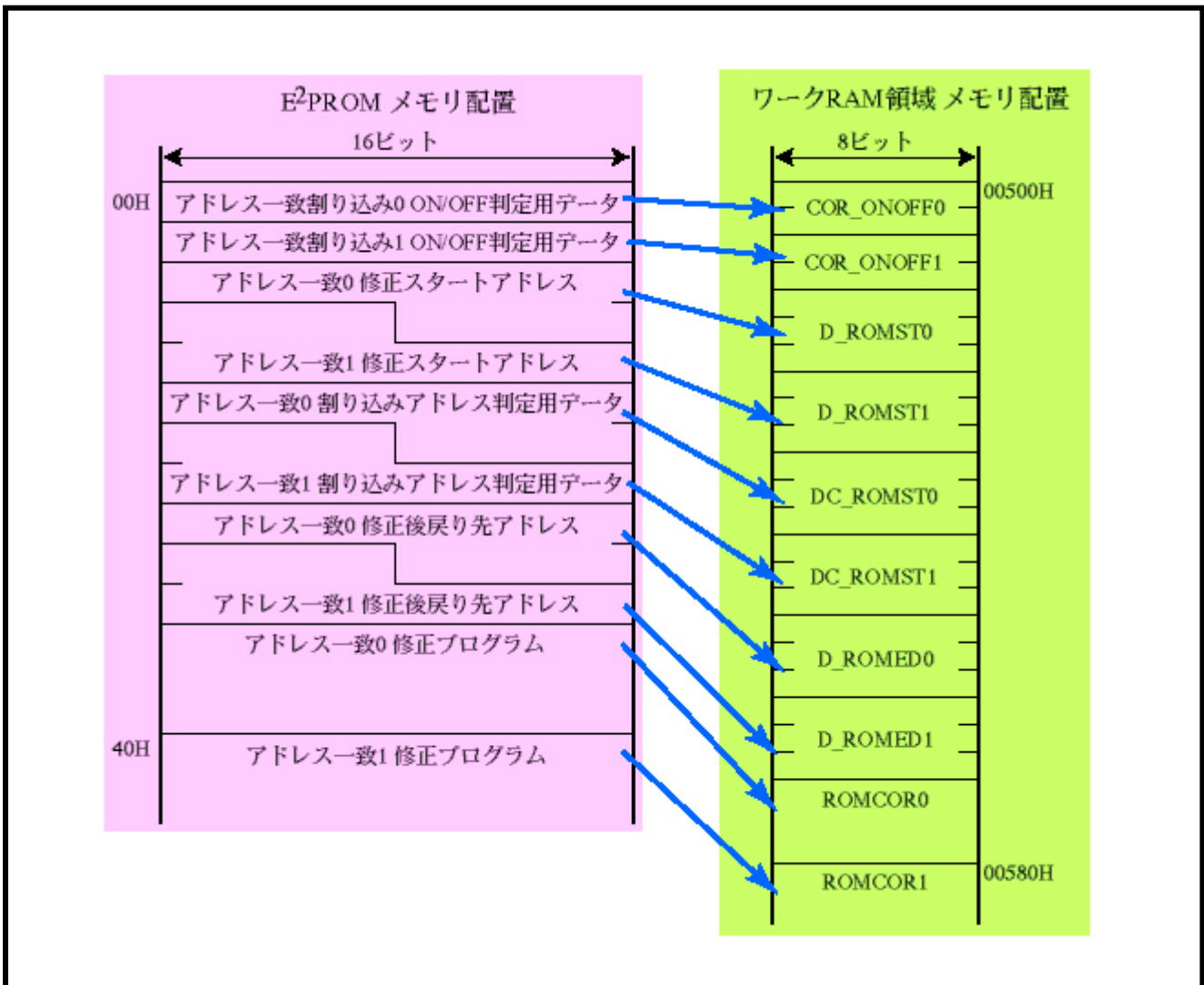


図 6. メモリ配置例



**アドレス一致割り込み 0(1) ON/OFF 判定用データ**
**GOR\_ONOFF0(1)**

アドレス一致割り込み 0(1)を使用するかどうかを判定するための値です。

"0"でアドレス一致割り込み 0(1)を無効、"00A5H"で有効にします。

**アドレス一致 0(1) 修正スタートアドレス**
**D\_ROMST0(1)**

アドレス一致割り込みレジスタ 0(1)に設定する値です。

**アドレス一致 0(1) 割り込みアドレス判定用データ**
**DC\_ROMST0(1)**

アドレス一致割り込み発生時に、スタックに積まれる値です。

この値でアドレス一致割り込み 0 が発生したか、アドレス一致割り込み 1 が発生したかを判定します。

**アドレス一致 0(1) 修正後戻り先アドレス**
**D\_ROMED00(1)**

アドレス一致割り込みからの戻り先アドレスです。

アドレス一致割り込みからこのアドレスには、REIT 命令で戻ります。

**アドレス一致 0(1) 修正プログラム**
**ROMCOR0(1)**

修正プログラムです。

アドレス一致割り込み 0 の修正プログラム容量は、約 100 バイトです。

アドレス一致割り込み 1 の修正プログラムでは、E<sup>2</sup>PROMの容量、およびMCUの内部RAM容量以外に、容量を制限するものではありません。

### アドレス一致割り込みレジスタの判定方法

アドレス一致割り込みを発生するアドレスは、2箇所、設定することができます。しかし、どちらのアドレスにおいても同じ割り込みベクタを使用するため、割り込み処理の先頭で、どちらのアドレスから割り込みが発生したかを判定する必要があります。

判定方法としては、スタックに退避されているアドレスを使用する方法があります。

アドレス一致割り込み発生時は、下記に示す退避アドレスがスタックに退避されています。退避されたアドレスをプログラムで判定することによって、どちらの割り込みが発生したかを判定することができます。

### 退避アドレス

アドレス一致割り込み発生時は、アドレス一致割り込みレジスタに設定したアドレスに+1または+2されたアドレスが、スタックに退避されます(命令の先頭アドレス+1または+2)。+1されるか+2されるかは、アドレス一致割り込みが発生したときに実行している命令によって異なります。

[アドレス一致割り込みレジスタに設定したアドレス+2の命令]

- ・ 16ビットオペコード命令
- ・ 以下に示す、8ビットオペコード命令 (ただし、dest = A0/A1)
  - ADD.B:S #IMM8,dest
  - OR.B:S #IMM8,dest
  - STNZ.B:S #IMM8,dest
  - CMP.B:S #IMM8,dest
  - JMPS #IMM8
  - MOV.B:S #IMM,dest
  - SUB.B:S #IMM8,dest
  - MOV.B:S #IMM8,dest
  - STZX.B:S #IMM81,#IMM82,dest
  - PUSHM src
  - JSRS #IMM8
  - AND.B:S #IMM8,dest
  - STZ.B:S #IMM8,dest
  - POPM dest

[アドレス一致割り込みレジスタに設定したアドレス+1の命令]

上記以外

## サンプルプログラム

下記の ROM 修正サンプルプログラムでは、次の処理を行っています。

1. アドレス一致割り込み発生時、スタックに退避されるアドレスを、修正するアドレスと修正すべき命令から算出し、EPROM に格納します。
2. 割り込み処理の先頭で、1 で算出したアドレスと実際にスタックに退避されたアドレスを比較します。

```

MOV.W 0[SP],R2      ;スタックからアドレスを読み出します
MOV.B 3[SP],R0L
AND.B #0FH,R0L     ;下位4ビットのみ有効
BTST F_ROMCOR0    ;ROM修正0の許可判定
JZ JUDGE_1        ;ROM修正0は不要 -> ROM修正1の判定
CMP.W DC_ROMST0,R2 ;修正アドレス?
JNZ JUDGE_1
CMP.B DC_ROMST0+2,R0L
JZ ROM0
JUDGE_1:
BTST F_ROMCOR1    ;ROM修正1の許可判定
JZ AD_ERR        ;ROM修正1は不要 (ROM修正は不要)
CMP.W DC_ROMST1,R2 ;修正アドレス?
JNZ AD_ERR
CMP.B DC_ROMST1+2,R0L
JZ ROM1
JMP AD_ERR
ROM0:
JMP ROMCOR0     ;修正0
ROM1:
JMP ROMCOR1     ;修正1
AD_ERR:
JMP ERROR      ;エラー処理
    
```

#### 4. ホームページとサポート窓口

ルネサス テクノロジホームページ  
<http://www.renesas.com/>

M16C ファミリ MCU 技術サポート窓口  
E-mail: [support\\_apl@renesas.com](mailto:support_apl@renesas.com)

## 改訂記録

Rev.	発行日	改訂内容	
		ページ	ポイント
1.00	2004.02.25	-	初版発行

### 安全設計に関するお願い

1. 弊社は品質、信頼性の向上に努めておりますが、半導体製品は故障が発生したり、誤動作する場合があります。弊社の半導体製品の故障又は誤動作によって結果として、人身事故、火災事故、社会的損害などを生じさせないような安全性を考慮した冗長設計、延焼対策設計、誤動作防止設計などの安全設計に十分ご注意ください。

### 本資料ご利用に際しての留意事項

1. 本資料は、お客様が用途に応じた適切なルネサス テクノロジ製品をご購入いただくための参考資料であり、本資料中に記載の技術情報についてルネサス テクノロジが所有する知的財産権その他の権利の実施、使用を許諾するものではありません。
2. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他応用回路例の使用に起因する損害、第三者所有の権利に対する侵害に関し、ルネサス テクノロジは責任を負いません。
3. 本資料に記載の製品データ、図、表、プログラム、アルゴリズムその他全ての情報は本資料発行時点のものであり、ルネサス テクノロジは、予告なしに、本資料に記載した製品または仕様を変更することがあります。ルネサス テクノロジ半導体製品のご購入に当たりますは、事前にルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店へ最新の情報をご確認頂きますとともに、ルネサス テクノロジホームページ(<http://www.renesas.com>)などを通じて公開される情報に常にご注意ください。
4. 本資料に記載した情報は、正確を期すため、慎重に制作したものです。万一本資料の記述誤りに起因する損害がお客様に生じた場合には、ルネサス テクノロジはその責任を負いません。
5. 本資料に記載の製品データ、図、表に示す技術的な内容、プログラム及びアルゴリズムを流用する場合は、技術内容、プログラム、アルゴリズム単位で評価するだけでなく、システム全体で十分に評価し、お客様の責任において適用可否を判断してください。ルネサス テクノロジは、適用可否に対する責任を負いません。
6. 本資料に記載された製品は、人命にかかわるような状況の下で使用される機器あるいはシステムに用いられることを目的として設計、製造されたものではありません。本資料に記載の製品を運輸、移動体用、医療用、航空宇宙用、原子力制御用、海底中継用機器あるいはシステムなど、特殊用途へのご利用をご検討の際には、ルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店へご照会ください。
7. 本資料の転載、複製については、文書によるルネサス テクノロジの事前の承諾が必要です。
8. 本資料に関し詳細についてのお問い合わせ、その他お気づきの点がございましたらルネサス テクノロジ、ルネサス販売または特約店までご照会ください。